

経管栄養・たん吸引など

15-33
に

対応遅れる子どもの医療的ケア

上京で18日 専門家ら招きシンポ

遅れが目立っているため、シンポでは、必要な取り組みなどを議論する。

「在宅移行期」「未就学児」「学齢期」のライフステージごとに今何ができるのか、何をしなければならないのか、専門家らが講演し、参加者との討論を行う。基調講演では、田中総一郎あおぞら診療所ほっこり仙台院長が「小児在宅医療と地域ネットワーク構築」、高田哲神戸大学院教授が「学齢期の医療的ケアを必要とする子どもたちに対する国および自治体の取り組み」について、それぞれ話す。

NPO法人医療的ケアネット(京都市南区)が18日午後1時から、京都市上京区のルビノ京都堀川で、「医療的ケアを必要とする子どもたちの未来」をテーマにシンポジウムを開き、参加者を募集している。

経管栄養やたん吸引などが必要な医療的ケア児は近年増加しており、国は2016年度から自治体に支援を進めるよう努力義務を課した。しかし、対応の

同ネット会員と当業者・家族は千円。その他は1500円。申し込み締め切りは10日。ファクス075(693)6605かメールmconet-info@mcnet.or.jp 講師と参加者らの懇親会4000円もある。

(小川卓宏)